

# 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)の全国展開

小野 賢二郎 ●金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科 脳神経内科学 教授／認プロプロジェクトリーダー



金沢大学の認プロメンバー

## 1. 背景と目的

超高齢社会に突入している我が国において、認知症患者数は増加の一途をたどっている。一方で、認知症医療に携わる医療者数は十分とは言えない。特に高度の専門知識・医療技術を有し、認知症医療の中心を担う人材の不足を解決することは、我が国において喫緊の課題である。

「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)」は、2014年度からスタートした文部科学省の事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』に採択されたプログラムで、“認知症の真のプロフェッショナル”の育成を目標としている。認プロは北陸医科系4大学(金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学)の拠点ネットワークを中核に関連医療機関等が連携して取り組んでいる。2018年度で文部科学省による支援は終了し、2019年度からは4大学の自己資金に基づき、事業継続している。

## 2. 取り組みの方法

コロナ禍以降は、オンラインを中心とした体制での事業を継続し、北陸のみならず全国の認知症プロフェッショナルの人材育成に貢献している。具体的には、ウェブ上での

e-learning 講義、毎月1回、認知症関連の症例について検討する「デメンシアカンファレンス」、同分野のプロフェッショナルによる講演会「FD講演会」の開催を行っている。2022年10月には「COVID-19と認知症」とのテーマでシンポジウムを開催する予定である。

さらに、金沢大学が実施している認知症疫学研究(なかじまプロジェクト)のフィールドワークや、認知症・神経難病の臨床神経病理研修コースといった特色ある教育コンテンツを提供している。

## 3. 期待される成果

認知症の専門人材育成事業は我が国初の取り組みであり、7年間継続できたことで、2021年12月までに、累積で113名の医師と2340名の様々な医療分野のメディカルスタッフ(看護師、薬剤師、臨床検査技師、リハビリスタッフ、心理師、介護福祉士等)が本事業の講座を修了した。医師数の少ない北陸地域において、認知症専門医の数が0.7人/10万人(2014年)から1.8人/10万人(2021年)まで増加しており、全国平均(1.6人/10万人:2021年)を上回る結果となったことは特筆すべき点と思われる。

認プロは認知症専門医、専門メディカルスタッフの育成を通じて、認知症の予防ならびに認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域医療の実現に貢献していると考えられる。今後は、全国展開を視野に医療従事者への認プロの教育プログラムやセミナー等をより一層拡大し、北陸地域の事業で培った経験をもとに、我が国の認知症専門の人材を幅広く育成していく事業展開を予定している。